

ビワの大果生産のためのせん定・摘らいについて

寺井 理 治・一 瀬 至 (長崎県果樹試験場)

TERAI, O. and I. ICHINOSE: Effects of Pruning and Removal of Flower-Buds on the Fruit Size of Loquat

長崎県のほとんどのビワ産地では、大玉果生産のため、枝数を極端に少なくする強せん定、強芽かきが徹底して行われている。この強せん定と強芽かきによって大玉果は生産できるが、枝数が少ないので予備枝がなく生産量が不安定になっている。そこで大玉果が安定して生産するための方法を明らかにするために、せん定時期、せん定程度、摘らいの方法について検討したので報告する。

1. 試験方法

変則主幹形整枝茂木種22年生樹を供試し、7月せん定と9月せん定、強せん定と弱せん定、摘らいと無摘らいを相互に組み合わせて、L₈直交表に割り付け処理した。強せん定は、強せん定に加えて副梢を全部芽かきした。弱せん定は、通常のせん定と芽かきを行った。摘らいは果房の中部4段の側軸を残し、下部3段の側軸と上部をせん除した。

2. 試験結果及び考察

1) 果実の肥大に及ぼす主な要因はせん定程度であり、

7月、強せん定、摘らいの組み合わせが最も大玉果割合が高かった。2) 収量は強せん定が弱せん定より少なかった。せん定時期、摘らいの有無では差は認められなかった。3) 摘らいを行ったほうが無摘らいよりも果実の肥大がよいようである。4) 着房率は強せん定が弱せん定より高くなったが、1樹当たり着房数は、強せん定が弱せん定より少なかった。5) 1年生枝の数は強せん定によって著しく減少し、このため1樹当たり着房数が減少し、ひいては収量も少なくなった。

以上のことから、大玉果生産には、7月・強せん定が有効であると思われるが、収量が著しく少なくなることが明らかになった。したがって実際のせん定に当たっては、その年の収穫期の早晚、日照条件等よりみて、着房がよいと思われるときは、7月・強せん定でもよいと考えられるが、逆の場合は、9月・弱せん定を行うなど適宜変更する必要がある。

第1表 ビワのせん定時期、程度、摘らいと収量、着房率並びに結果枝 (1976~1978年平均値)

処 理		果数 個	重量 kg	1果平均 重量 g	収量の 伸び率 %	着房率 %	着房枝 数	1年生 枝数	1年生枝 数の伸 び率
せん定の 時 期	7月	992	37	39	136	56	537	894	100
	9月	1081	37	36	157	64	663	997	103
せん定の 程 度	強	723	29	40	114	62	413	643	76
	弱	1351	45	35	179	58	788	1229	121
摘らいの 有 無	摘らい	923	35	36	136	58	553	801	101
	無摘らい	1150	39	36	157	63	647	1007	103
有 意 性	せん定の時期	*		*		*			
	せん定の程度	**	**	**	**		**	**	**
	摘らいの有無			*					